

## 七ヶ岳道迷い(2006年夏)

50代4人。護摩滝の左側にロープが見えるが無理に思えたので、巻いて越える。藪とガレ、急斜面にあえぎながら稜線に出るも藪が酷い。諦めずに鉄塔の見える方向に少しずつ進み事なきを得た。



## 解説

護摩滝の高さは20メートルほどで、左側にロープが見えるが、直登はとても無理なように思えたので、滝の下にあったヤブ道から巻いて越えようということになった。ヤブ道に入ると、しだいに岩場とガレに変わった。やがて恐怖感を覚えるほどの急傾斜になった。これは巻き道でないかもしれないと感じ始めたが、なんとなく言い出せないままに登り続けて行った。(正しいルートは護摩滝の左に見えたロープの箇所、滝登り自体は、慎重に行動すれば難しいものではなかった。)

12時45分、急斜面を登りきって稜線に達したが、そこは完全にヤブ山で、進退きわまった。小さく見える鉄塔へたどり着けば道があるだろう、ということで、背丈を超えて密生するクマザサと灌木のヤブこぎが始まった。初めて経験する本格的なヤブこぎは全身の体力を奪い取るだけでなく、精神的にも追い詰められ、遭難の不安におびえさせられた。

ときおり木によじ登って方角と距離を確認した。こうして3時間あまり、あきらめずに少しずつ前進し、ついに鉄塔にたどり着いて生還することができた。(HP参照)

『あれっ？おかしい？』と気づいているのに言い出せない。七ヶ岳の登山道は沢だが道がない藪尾根を登っている。初期段階の判断が大切であり「**根拠なく進む行動**」は遭難へ向かっていると認識してほしい。